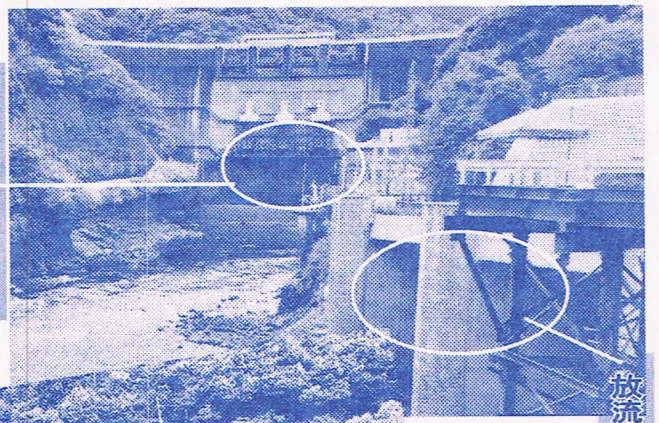
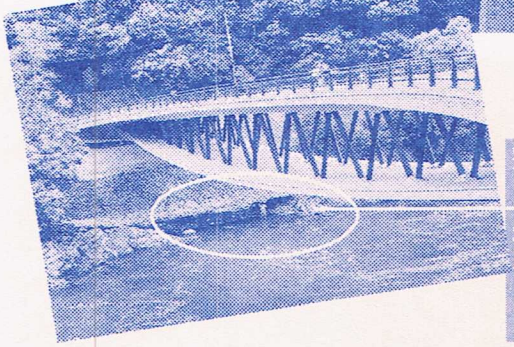
天ダム下流の右岸が2ヵ所崩落

天ケ瀬ダム トンネル 初の本格的放流

宇治市は、6月1日に開催された建設水道常任委員会に、5月連休の後半に発生した天ケ瀬ダム放流トンネルによる右岸の道路の崩落について報告しました。天ケ瀬ダムの放流計画・豪雨対策について、原因の解明が求められています。





報告によると、国土交通省・淀川ダム統合管理事務所（以下、「ダム事務所」）は、5月連休の後半に降った大雨により琵琶湖の水位が上がり、それを下げるために、8日（月）夕方4時頃から天ケ瀬ダムからの放流を行ないました。

この時、天ダムに流入した水は約900㌧～800㌧。ダム事務所は、今年3月に660億円かけ完成したトンネルを使い、初めての放流を行いました。

この放流により、トンネル向かいの関西電力(株)私有地の右岸が崩落し、白虹橋橋台部分が洗堀していることをダム事務所職員が確認しました。

ダム本体の放流はゼロ

そもそも天ケ瀬ダム再開発事業の放流計画では、「宇治地点の流量は天ダムからの放流量114㌧に宇治発電所、宇治残流域からの流入量を加えたもの」「戦後最大洪水（昭和28年台風13号）が発生した時は宇治地点の流量は1500㌧」「従って、宇治川（宇治地点）において流下能力を1500㌧に増強する改修が必要。・・加えて、1500㌧の琵琶湖後期放流を行うことができるようになる」（淀川水系流域委員会69回委員会審議資料）と説明し、放流トンネルの設置工事と塔の島の改修、河床掘削を進めてきました。

今回、ダム本体からはまったく放流せず、トンネルと関電宇治発電所の2ヵ所から放流しました。

党議員が委員会で、「トンネルから何㌧、関電宇治発電所から何㌧放流したのか」と質すと、建設総括室理事（国交省から出向）は「現在、調査中」と答弁しました。

ダム事務所は、「ダムの貯水位が出水期に設定している72㍍でも確実に流せるためのゲートを整備した。880㌧は貯水位が最高の78・5㍍の時、水圧の関係で機能上、流せる能力」「実際には600㌧を目標にしており、880㌧は流さないため公表しなかった」、「水圧などの関係で揺れ幅はある」（洛タイ新報5月12日付）と説明しています。

宇治市は、新たな観光資源として、ダム直下に広場を整備する「かわまちづくり」計画を進めています。温暖化の影響で洪水が多発しています。放流計画が不明で市民の安全が確保できるのか疑問です。計画は中止するべきです。

トンネル放流能力880㌧まで可能だった！

今回の崩落事故を受けて、トンネルの放流能力は600㌧ではなく、880㌧であることが明かになっています。しかしこのことは、宇治市にも市民にも全く明かにしていません。

訂正とお詫び
団だより5月28日号「新政府用」は「申請不要」の誤りです。訂正します。

議員団へのご意見はこちらに。

日本共産党
宇治市会議員団
だより 2023. 6.11
Tel：0774 - 22 - 3141
（市役所）
（内線 2817 議員団室）
Fax：0774 - 24 - 7884